

はまなす季刊 **冬** 121

Vol.121 ❖ 2026/2/25 発行



ベニヒワ

2026年1月11日 工藤立史撮影
札幌市真駒内公園

巻頭言

「二季」化と透析

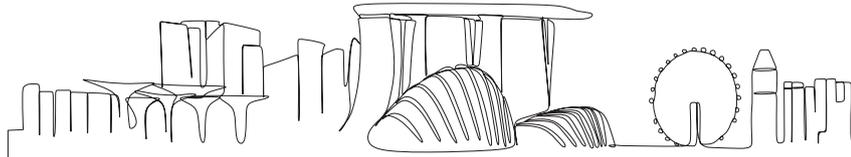
理事長 工藤 岳秋

もうすぐ三月。雪解けが待ち遠しくなってきました。近年は春になると急激に気温が上昇し、心地よい陽気を通り越して一気に真夏の日差しになってしまうような印象があります。

実際に日本では、過去40年余りで春と秋が短くなり夏が約3週間長くなったことを三重大の研究グループが明らかにしました。海面水温の上昇が主な原因で、このまま地球温暖化が続けば長い夏と急激に訪れる冬の「二季」化がより鮮明になるとのことです。

温暖化対策は道半ばです。火力発電から再生可能エネルギーへの移行による二酸化炭素の排出抑制に期待したいところですが、洋上風力発電は建設コストの高騰でつまずき、大規模太陽光発電（メガソーラー）は釧路湿原などでの自然破壊が槍玉に挙げられています。

私たちの専門の一つである血液透析は大量の電気を消費する治療です。電源の脱炭素化が進み、二季化の片棒を担ぐかのようならうしろめたさを感じなくても済む日が早く来てほしいものです。



やけい —ニワトリの原種とのお会い—

副理事長 工藤 立史



メスのやけい



オスのやけい

去年の8月、シンガポールの植物園を訪れた。そのとき初めて「やけい」に出会った。ニワトリの祖先にあたる鳥である。

ツアーの一日目、家族とバスで市内観光する途中、植物園に立ち寄った。イギリス植民地時代に開園し、東京ドーム13個分の広さで一週するには3時間以上かかる。バナナ、シヨウガ、蘭など熱帯植物の間からセミの音が響き、かわったデザインの小鳥が飛び交った。私には異次元の空間に感じられ、ゆっくりしたいところだったが、ツアーバスにはスケジュールがある。すぐに次の目的地へ向かってしまった。

次の日、どうしてももう一度この植物園を訪れたかった。妻と息子は関心がなく、興味を示した娘と一緒に出かけた。通勤ラッシュの地下鉄に乗って15分。園内は高温多湿だが朝はさわやかで、多くの市民が散歩している。間もなく娘が大型のアゲハチョウやトカゲを見つけた。池ではトンボが産卵中だ。都会のイメージが強いシンガポールだが思いのほか自然が豊かだった。歩いてみると不意にコケコッコという鳴き声が出て驚いて振り返ると、ひとつがいのニワトリがいた。そういえば「園内にはニワトリもいます」とガイドが話していた。メスに比べてオスはひととき美しい。首から尻尾まで



園内に咲くランの一種

明るい金色とブロンズのグラデーションが輝いて尾が長い。「野鶏(やけい)」ではなかるうか?子供の頃に図鑑で見たことがある。「やけい」とは文字通り野生の鶏で家禽の原種である。念のためスマホ検索で確認をとると赤色野鶏(セキショクヤケイ)というのが正式名称だった。現在は野生種が激減しており絶滅も危惧される。東南アジアに広く生息するが、こんなところでお会いするのは!

南方の多くの鳥が飛び交う庭園でニワトリを見て感激するというものはばかられるが、これはタダのトリではない。日本の地鶏はやけいの特徴を残しているものが多いという。たがニワトリ、されど原始のニワトリ。この植物園を再訪した価値があったように思う。



札幌ふしこ内科・透析クリニックへ 見学に行きました。

篠路はまなすクリニック
看護師 喜多 祐輔



喜多主任



医療法人 札幌ふしこ内科・透析クリニック



昨年10月、腎臓リハビリテーション講習会をオンラインで視聴しました。そこで札幌ふしこ内科・透析クリニックの角田政隆先生が講師の一人としてお話しされていました。その中で透析中の運動療法を積極的に行っていることを知り、見学したいと思いました。先方に連絡をとったところ快諾をいただき、11月13日に当院の松井師長、はまなす医院の近藤主任とともに訪問し



透析室の様子

てきました。

角田院長先生にご挨拶した後、鈴木事務長さんにクリニック内を詳しく案内していただきました。業務の管理、分担方法などいろいろと参考になることがありました。

透析室はスタッフの年齢層が思ったよりも若く活気にあふれている印象を受けました。

最も関心を持っていた透析中の運動療法は、各ベッドに付いているモニターにDVDを流しそれを見ながらベッド上で下肢の運動をするというものでした。動画は透析時間内に繰り返し流れており、そこが患者さんのペースで運動を継続できるポイントであると思いました。



昼食のヒレカツ

脚力強化のための足こぎペダルなども使いやすいように考えられており、今後当院でも取り入れていきたいと思えます。

今回の見学を参考にして患者さんにとって居心地の良い、スタッフにとっては働きやすい透析室を目指していきたいです。

ちなみに食事はヒレカツでした。全てスーパーで買える食材で作られているようです。ちょっとおしゃれなランチをいただいている気分でした。





忘年会を開催しました。

総務主任 永田裕士

2025年12月20日(土)、京王プラザホテル札幌で恒例の忘年会を開催しました。副理事長によるピアノ演奏、豪華景品が当たる大抽選会、OXクイズで盛り上がり、笑顔で年を締めくめることができました。



会長



理事長



副理事長



副理事長によるピアノ演奏



山本先生

2025
Year end party

Right or wrong?

WRONG!



司会のふたり



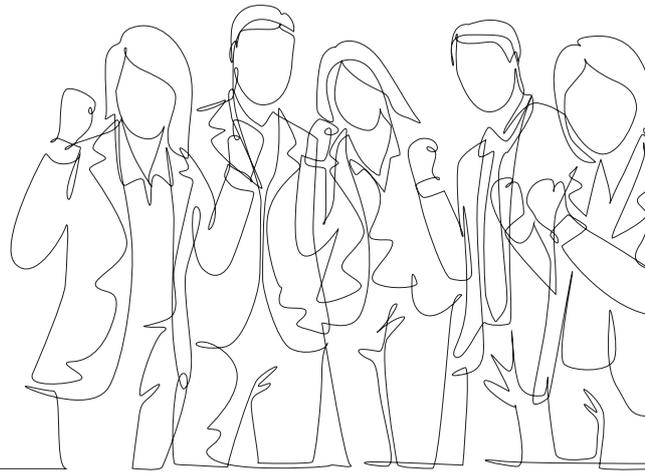
ドキドキの大抽選会



OXクイズの様子



医療法人はまなす 全員集合!



中学生が1日職場体験にきました

2025年11月7日、上篠路中学校2年生男子2名が職業体験に来ました。

1日という限られた時間ではありましたが、透析、外来、病棟、レントゲン室などの見学と、実際に患者さんとふれあうことや、ストレッチャー、車いすの試乗体験もしてもらいました。もともと医療関係の仕事に興味があるということで、真剣な表情でスタッフの話聞く姿が印象的でした。

後日、「普段みることでできない設備や、仕事ぶりに触れさせていただき勉強になりました。病院ではひとつのミスが命取りとなる中、冷静かつ迅速に仕事をこなし患者さんへの敬意を忘れないところがうばわれました」「患者さんたちに寄り添う姿を拝見して、人を思いやることの大切さを学び、とてもやりがいのある仕事だと思いました。」とお手紙をいただきました。

今回の体験学習が自分の将来を考える材料の一つとなってほしいものです。

看護師長 松井 かなえ



医療安全の勉強会を実施しました

2025年10月21日、篠路透析ラウンジにて「転倒・転落防止対策」をテーマに勉強会を開催しました。前半はスライドで一般的な病院の場面の写真を見て、どこに転倒・転落の危険があるかを学び、自施設に置き換えることでそれらを防止する手だてを見直すことができました。



後半は教材を用いての高齢者の疑似体験で、身体に様々なパーツを装着し加齢や病気などで生じる身体的・心理的变化を体験することができました。不自由さを体験することで患者さんの不便に感じている点や医療安全の妨げとなる施設内の環境に気付くことができより安全な院内環境を目指していきたいと思えます。

臨床工学技士 野口 公貴

「フリーエア」を探せ

はまなす医院をオープンして10年ほどたったころ、ある日の昼さがりに20歳前後の若者が私の外来にやってきた。車の事故で石狩市内の脳外科の病院に搬送されたのだが、頭頸部に異常はなく、腹痛のために当院にまわされたものだった。

けが人は石狩市在住の小樽商大の学生である。通学する途中で事故に遭った。一見して重症そうには見えなかった。だが診察の結果は腸管破裂の疑いが濃厚だった。

腸管の損傷ではフリーエア（free air）が貴重な所見となる。フリーエアは腸が破れてガスが外に漏れだしたときにレントゲンにあらわれる陰影（かげ）だ。すぐさま腹部の撮影を行ってこのサインを探したが見当たらない。フリーエアがあれば確信にせまるのだが……。

だがことは急を要する。時間がたつて破れた腸管から漏れた便が腹腔内を汚染すれば重篤な腹膜炎をひきおこす。フリーエアを探すことに拘（こ）わらわっていつかは時機を失することになりかねない。腹をくくってつき添っていた母親に、腸が破裂して緊急手術が必要であることを告げた。

ところが「母ひとり、子ひとりなんで

す。ゼツタイ大丈夫ですか！」、と彼女は血相を変えて詰め寄ってきた。ゼツタイ、という言葉に満身の力がこもっていた。シングルマザーなのだろう。ひとり息子を大切に思う気持ち痛みほど伝わってきた。

どこか高次の医療機関へ転送することも考えなかったわけではない。だが転送する先の病院の医師が私の診断を信じてくれるだろうか？フリーエアがないのだ。アナムネーゼ（問診）と触・聴診によるだけの、腸管破裂の疑い、など経過観察に回されるのがオチだろう。そうして時間が費やされればその間に病状は悪化していく。

「ここで手術するのがベストチョイスなのだ！」自らに強く言い聞かせた。青ざめて不安の塊になっている母親をやつとのことと説きふせて手術の承諾をとり、北大第二外科からの応援医師を待つて手術が開始された。

ところが腹腔内はとてきれいだっただ。出血も、腸液の漏れも、腹水もない。ツルツル・ウネウネした腸管を1mにもわたって手繰（たぐ）りながら心の中不安が広がってきた。

「誤診だったのか？」
だがその直後、応援の医師から「オーっ」という押し殺したようなうめ

きもれた。インギンチャクが口を拡げているような形の破裂した腸が目の前に現れたのである。

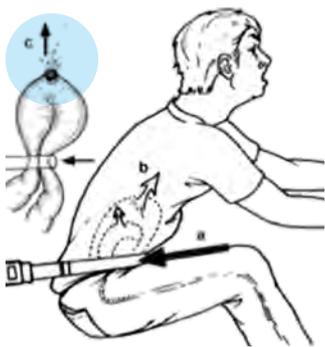
そのあとは手慣れた手術操作を行って術後は順調に回復した。

「どうやって聴診器一本で診断をつけたんですか？」とは応援に来た医師からの質問である。たしかにフリーエアも認められず客観的な手掛かりは何もなかった。経験にたよった状況証拠だけが拠（より）どころだった。

だが振り返ってみるとどうにもこのケースは以前に経験した腸管損傷とは趣（おもむ）きが異なる。腸管が穿孔するほどの外力が加われば破裂した部位のまわりにダメージが及びぶが、ふつつである。腸間膜や腸壁が挫滅し出血をみるのだがなぜそれらが起こらなかったのか？

その謎は長らく私の頭に残った。それがつい先ごろ偶然のことから医学雑誌に同じケースを扱った論文を見つけたのである。

それには、ループ状の腸管が車のシートベルトと脊柱（せぼね）の間に挟撃されると、ふくらんだ風船がはじけるようにワンポイントで穿孔することがある、と述べられていた。ちなみに、受傷後早期であればフリーエアが現れない、との記載も添えられていた。



「シートベルトによる腸管損傷」
北海道医報(1287号)から引用

昇格 しました！

10 / 1

篠路はまなすクリニック

主任(透析室) 喜多 祐輔



患者様にもスタッフにもいい透析室となるように尽力していきますので、よろしくお願いいたします。

10 / 1

篠路はまなすクリニック

主任(病棟) 岡田 美弥



患者さまが安心して過ごせる病棟づくりを目指し、責任をもって日々の業務に取り組んでまいります。
より良い看護を提供できるよう努めます。

新しく 入りました！

10 / 1

篠路はまなすクリニック

放射線技師 酒谷 猛



異動 しました！

12 / 1

篠路はまなすクリニック

↓ はまなす医院

臨床工学技士 島田 良太

12 / 1

はまなす医院

↓ 篠路はまなすクリニック

臨床工学技士 米津 祐菜

編集後記
歳を重ねると考え方も変わる。月1くらいで映画鑑賞をするのだが、10代、20代のころはもっぱら字幕つきの洋画。
今はほぼ邦画。洋画や海外ドラマを見るとしても吹き替えで見る。
俳優の本当の演技ではなく、文字を追わずに済むので、映像を楽しめるし、内容も頭に入りやすい。何事も一長一短。
何を重視するかは個々の感性。40代は自分の流れで楽に生きていきたい。

(H・N)

表紙写真

ベニヒワ



スズメよりやや小さく、秋になるとシベリア方面から渡ってきて冬を越します。大群が見られる年もあればほとんど姿を見ない年もあり、変動が大きいようです。この冬はいわゆる「当たり年」で、あっちこちでベニヒワを見ることができました。ヨモギやマツヨイグサの種を食べる他、シラカバ類などの種子も食べます。写真はハンノキの種を食べているところです。

(工藤 立史)

